



帯広西ロータリークラブ

第2038回例会

会報

2014.4.3



■RI第2500地区テーマ■

「讚えよう地域を!クラブを!会員(自分も)を!
ロータリーとの出会いに感謝!



■クラブ・テーマ■

「ロータリークラブに出席し、ロータリーを楽しもう」
(Attend at the Rotary Club, and let's enjoy a rotary)

ゲスト紹介

(株)エフエムおびひろ FM JAGA
チーフディレクター 栗谷 昌宏 様

4月結婚祝

堀 修司会員 (1973.4.29)、笹井祐三会員 (1976.4.23)、
佐々木嘉晃会員 (1982.4.25)、高田晃一会員 (1984.4.15)、
谷脇正人会員 (1990.4.14)、天野清一会員 (1990.4.22)、
若林 剛会員 (1991.4.20)、上野裕司会員 (1993.4.19)、
神田龍一会員 (1993.4.24)

4月誕生祝

岡田武稔会員 (1934.4.1)、笹井祐三会員 (1944.4.27)、
渡部省一会員 (1947.4.5)、森 房明会員 (1960.4.25)、
増井信也会員 (1967.4.24)、熊切宏樹会員 (1968.4.25)、
工藤正宏会員 (1968.4.23)

乾杯

田中利昭会員



会長報告

齊藤憲生会長



皆さん、こんにちは。会長報告をいたします。

4月に入り消費税が8%になりました。皆様の所はどうでしょうか。十二分に対応された事と思いますが、混乱はありませんか。

医療機関は月末・月初めはレセプト、診療報酬明細書という請求事務があります。それに加えて今月は2年に一度の点数改正、そしてこの消費税のアップ、トリプルでの変更で、堅くなった頭が悲鳴をあげ、診療室、そして受付にコンピューターが無いと、とても対応できません。

今月から消費税がアップになりましたが、他の職業はお客様に付加することができますが、治療費は患者さんに付加する事はできません。西クラブに医者、歯医者、薬剤師の方々がいますが、みんな消費税のアップはかぶることになります。

ロータリークラブの諸費も消費税のアップがあり

ます。ただ北海道ホテルさんから確認の文章が来まして、今月、4月、5月、6月に関しては、年間契約と言う事で、かかる費用は据え置き、北海道ホテル関係は、7月、平田年度からのアップとなります。

また帯広クラブより、5クラブの事務所費用が今月からアップされ、当クラブにも分担金のアップの了解を求めて来ましたので、帯広クラブさんに了解をいたしましたので、ご承知下さい。

さて6月、帯広に来られる高松ロータリークラブから、この高松との友好クラブ提携は、皆さんも知ってらっしゃる通り、昨年、川田直前会長、大友前幹事がお骨折り下されたものですが、そういう関係もありまして、川田直前会長に高松から、この6月、帯広に行った折、帯広市に何か寄贈したいが、何が良いだろうかと話す話しが来て、昨日、川田さんと私と二人で、本迫副市長さんとお会いしてきました。

帯広市からの提案では、幸福駅には平原ライオンズを始め色々あるが、愛国駅にもあれば良いと言うことで、一つ目は「ラブチェアー」、二つ目は「ハート型の葉っぱのカツラの木」の、二つの提案がありました。

この提案は、川田さんから、そのまま高松の方へと言う段取りになっています。

その後、私は初めて行ったのですが、市役所の11階の喫茶室に行き、川田さんと二人で、小一時間、高松、そしてクラブの事などを話しました。これから高松をお迎えしおもてなしをするために、大変有意義な時間を持つことができ、良かったなあと思っています。

以上で、会長報告を終わります。ありがとうございました。

会務報告

天野清一副幹事

①帯広南RC、夜間例会(創立記念)開催のご案内

日時 4月21日(月)午後6時30分
場所 北海道ホテル

②帯広北RC・帯広東RC・音更RC、3RC合同夜間例会開催のご案内

日時 4月22日(火)午後6時
場所 ホテル日航ノースランド帯広



ニコニコ 4月3日 10,000円
献金 累計 387,000円 (4月3日現在)

2014年 4月 雑誌 月間



会長 齊藤 憲生 副会長 佐藤 聡 会場監督理事 横田 幸宏 発行：広報委員会
幹事 奥田 頼昌 副会長 石原 英樹 プログラム委員理事 太田 豊 委員長 北川 勝啓 (副)森 房明



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

※尚、帯広北RCは、4月25日(金)の繰上げ例会と致します。

- ③帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日 時 4月24日(木)午後6時30分
場 所 北海道ホテル
- ④帯広南RC、4月28日(月)の例会は、休会と致します。
帯広東RC、4月29日(火)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広RC、4月30日(水)の例会は、休会と致します。
帯広西RC、5月1日(木)の例会は、休会と致します。
帯広北RC、5月2日(金)の例会は、休会と致します。
帯広南RC、5月5日(月)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広東RC、5月6日(火)の例会は、祝日のため休会と致します。

委員会報告 出席報告

1月出席率		2月出席率	
1月 9日	95.24%	2月 6日	85.25%
1月16日	81.67%	2月12日	76.67%
1月23日	80.33%	2月20日	87.10%
1月30日	77.97%	2月27日	79.66%
平均出席率	83.8%	平均出席率	82.2%

ニコニコ献金

本田美喜男会員

上垣香世子会員

先日、北海道新聞に掲載されました。鉄建長万部鋼材加工工場の建設起工式を昨日終えてきました。北海道新幹線札幌延伸工事にともない地域雇用対策、品質管理、コスト削減、地産地消を目指した工場として地域活性化にも貢献したいと思います。



川田 章博会員

IM参加お疲れ様でした。来年は当クラブの担当です。宜しくお願いします。

金尾 剛会員

帯広国際カントリークラブ、オープンいたしました。皆様の御来場をお待ちしております。今年が一番目のお客様は当クラブの方でした。ゴルフシーズン到来。同好会への多数の入会をお願いします。

江口 文隆会員

本日のプログラム担当させていただきます。

北川 勝啓会員

プログラム

広報委員会

「伝える力」 (株)エフエムおびひろ FM JAGA 栗谷 昌宏 様



宜しくお願いいたします(場内笑い)。ここで笑いが起きるとは正直思っていませんでしたけれども、非常に緊張しております。「伝える力」というタイトルをつけさせていただきました。というのは僕にとって仕事でもそうですし、プライベートでも「上手に喋る」というよりも「伝える」ということを常に意識しています。

大学生の時にアメリカに一年間留学をしていたことがありまして、交換留学でいきなり三年生が終わったらアメリカのオレゴンの田舎町なんですけれども、そこで一年過ごしました。英語は日本人とだったら喋れる感覚で行ったんですけれども、アメリカの中では気持ちが喋る気持ちになれない。緊張もありますし、自分の英語とは外国人、アメリカ人は発音からして全く違いますので「伝わるんだろうか?」と不安になり、実際に話をしてみたらやはり通じなかった。どうしよう、通じない、そして喋ることをやめてしまう。そして一人でいる時間が多くなり、これじゃあダメだと思い、クリスマス時期に冬休みが来るんですけども僕は友達誰もいなくて、丘の上に寮があるんですけども、その丘にスノーボードのジャンプ台を作って一人で飛んで遊んでいたんです。そうしたら寮からそれを見ていた同じ学校の学生が二人来て、四人来て、やがて数十人がそこで遊び始めたんです。その時に「このジャンプ台をはじめに作ったのは誰だ?」というところで「あのジャパニーズだ」という話になって、友達ができて、

その時も英語を喋ることはできなかったんですけども、段々と上達していったんです。気が付いたのは正しい英語を喋ることが第一ではなくて、とにかく自分の気持ちを表そうとする気持ちを伝えることが大事なんだと思いました。よく考えてみると赤ちゃんは日本語を話すことはできませんけれども、ずっと接していると何故泣いているのかということがおおよそわかってきます。言葉なんて必要ないな、身振りでもいいですし、絵を描いてもいいと思います。そういうことが今自分が喋る仕事をしている上での「伝える」この意味合いのベースにあります。

僕の仕事というのは簡単に言えば「原稿を読む」仕事です。この原稿というのは僕に合わせて作られているわけではありません。勝毎花火大会の原稿でも「第63回勝毎花火大会スタートです」これは誰が言ってもこの文言というのは変わらない。ただ僕なりの伝え方、発声もそうですし、スピードもそうですし、声の大きさも花火の迫力に負けない、それにオープニングを楽しみにされているお客様の期待に応えるという意味合いで、勝毎花火大会に掛けている内部の人間の気持ちも伝える。ですからオープニングが一番強いメッセージを込めるパートのひとつです。具体的に「第63回勝毎花火大会スタートです」というのは例えば「第63回勝毎花火大会スタートです(やや大きな声で)」これでも間違いでは絶対にはないですよね。女性が言って「第63回勝毎花火大会スタートです(か細い声で)」これでも全然構わない。勝毎花火大会というのはすべてが指示されているわけではないので、僕がやらせていただいている

る間はそういうパワーを伝える。実際、花火が始まる時には一瞬待ちます。上がる瞬間に間を持って「第63回(栗谷節で)」という感じで声を出すわけです。僕らの花火大会のオープニングの高揚感というものを伝えたい。そこが「伝える」という一番大事なところで正確に読むのは勿論なんですけど、声を出す、挨拶とかもそうだと思うんですけど、そこに伝える意識を吹き込むか吹き込まないかで原稿というのは面白くなるし、つまらなくなるんです。例えば学校の先生が数学の問題を読むときに「Aさんはリングをみつつ持っています(栗谷節)」とは言わないですし、普通に「Aさんは」と言えばいいと思うんですけど。いろいろとイベントとか番組もそうですけど色を理解した上で話すことが大事なんじゃないかなと思います。

僕は長谷短期大学で半年間一年生に言語コミュニケーションの講義をやらせていただいております、ここでも伝えるんですけど、まずは挨拶だと。ただ発声する、喋るではなくて伝える。心のこもっていない言葉って言うのは、それは単なる音であって、心がこもってこそ会話になるんじゃないでしょうか。ですから僕のやっているのは原稿を読む仕事なんですけども、それに気持ちだとか心を入れる仕事だと思っています。講義の中で教えているのは「ありがとう」というのは当然相手に好意をもってもらい感謝の気持ちを伝えた上で相手に良い感情を持ってもらうために「ありがとう」という言葉は使えるんだとおもいますが、その伝え方によっては相手に反感を得ることもできるわけですよ。逆に言えば言葉というのは相手との距離を縮めることもできるし、距離を離すこともできるということが言葉の持っている二面性だと思います。ちょっと話がずれますが例えば相手との距離を作る話し方というのは悪い意味で敬語を使うことで相手との距離ができますよね。ずっとお付き合いをしている女性に対して、それまでは仲が良かったので普通に会話をしていたのに別れた途端、敬語を使う。「もうあなたと私は他人です」という意思表示です。あとわざと丁寧な言葉を使ったりすると相手はマイナスの感情を持ったりすることがあります。本当だったら「ありがとう」って言えばいいのに「ありがとうございます」って「ございます」って丁寧にすることで、なんで私にそんな丁寧な言葉を使うのということもあるかなと思います。そういったことを考えると言葉ってというのは凄く奥深くて、自分が良かれと思ったことでも相手にとってそれが受け入れられるとは限らない。そういった怖さがあるからこそ「伝える」ということを第一のテーマにやろうということです。その次に言葉を選ぶという作業にきます。よく聞かれますが、スピーチの時にどうやったら皆さんに聞いてもらえるのかという時、凄く緊張するんですけども、待つことなんです。いきなり突然「皆さん、こんにちわ」っていうのもスムーズでいいと思いますが、ざわついているときなんかは待つと。待つという行動の意味合いというのは、僕が話をしますので聞いていただけますか?という意思表示になります。すぐ話して、すぐにスムーズに行く場合はそれはそれでOKですが、ざわついたりする場合には「皆さんの話がひと段落するまで僕は喋るのを待っていますから」という伝え方もできるんじゃないかなと思います。大学生の時、塾で講師をやっていた生徒が騒ぎ始めると「うるさい」「静かにしなさい」これで会話が一回止まるんですが、音楽の再生ボタンに例えると、これはポーズ

ボタンを押しているだけであって生徒たちは騒ぐのをやめているわけじゃないんです。で、どうするかというと生徒が騒いでいるときは僕も喋らないんです。すると気付いた人間が話をやめ「あ、先生が黙っている、まずいんじゃないか」ということで上からになってしまいますけれども生徒たちをコントロールすることができるんじゃないかなと思います。

話を元に戻して「伝える力」ということなんですけども、人間の関心というのは言葉の文言ではなくて、言葉の表情といったものにあると思います。そういった研究成果も出ていますが、初対面の人間が好印象を持つのは話している言葉の内容よりも、言葉の色とか声にまず興味を持つそうです。これは声のよし悪しではなくて、声をどのように使っているかということで、それにはいろんな要素があって、もちろん声の大きさ、歯切れの良さ、スピードに表情や動作がついてくる。今、コンサドーレ札幌のスタジアムDJをやらせていただいております。その前は、三年前に三浦和良選手が参戦して話題になりましたFリーグという北海道で生まれたフットサルチームから「帯広にサッカーのことを喋れるDJがいる」ということで協力してもらえませんかという依頼を受けました。お金はありませんと言われましたが、それでも「僕サッカー好きですから、僕の仕事の空いているときでよければお手伝いしますよ」と言いました。上司にも説明しましたが「それは仕事として受けていいよ」ということで専属契約をしました。お金がないという話をしたときにエスポラーダ北海道のスポンサーがレオックという会社でFリーグの横浜FCのスポンサーでもある。横浜FCには三浦和良選手がいる。僕がサッカーをやり続けているのは三浦和良選手に憧れているからで背番号も部費を払い、買い取るといった形で11番をつけさせてもらっているんです。駐車場だとか居酒屋さんのロッカーの鍵とかでも、まずは11番を探します。駐車場も空いていたら遠くてもわざわざそこに停めたりします。そこでそのスタッフの方に「僕の夢は三浦和良選手に会うことなので、きっとエスポラーダ北海道と仕事をさせていただければ会わせてもらえるんじゃないか」ということを冗談で言ったら、「栗谷さん、わかりました。僕らも栗谷さんの夢が実現するように頑張りますから」と言った時に、三浦和良選手がエスポラーダ北海道に参戦というのが日刊スポーツに出たんですよ。「嘘だろ?」と思いました。で、実際に会うまでは信じないことにしたんです。チームに電話して確認することも「いや違うよ」と言われたらやっぱりガッカリするし、自然の成り行きに任せました。エスポラーダ北海道で三浦和良選手が入場するときに選手紹介をするんですが、実際には呼び捨てなんです。でも気持ちの中では「三浦和良」ではなくて「三浦和良さまぁ〜」と呼びたいくらいでした。夢が叶いエスポラーダ北海道でのMCをコンサドーレ札幌の関係者が見て、あの新しい雰囲気とか、新しいMCをコンサドーレも探しているという時に、憧れだったJリーグから声をかけていただいて現在に至っているわけです。そこで僕が気が付いたのは、先程「伝える」という話をしましたけれども、自分の夢を堂々と皆に言う。そうすると「ああ、あいつは三浦和良に会いたがっている。じゃあ会わせよう」という風に動いてくれる人も出てくる。その時にチームでは絶対にサインや握手を求めたりすることはやめましょうということになっていて、何故ならばサポー

ターの方々がそれを一番それを欲しいはずなのに、内部の人間だからといって記念撮影したりとかはやめましょうということになっていました。でも関係者が僕のところに来て、ちょうどたまたま三浦選手が歩いて来た時に「カズさん、カズさん。これが言っていたMCの栗谷さんです」と紹介をしてくれました。そうすると三浦和良選手が「サッカーやってるんだって?仲間だね」と握手をしてくれて「わぁ、わぁ~」ってなりました。これあまり表では話してないんですがポお~っとしながらお手洗いに行った時に我に返ったんです。もうちょっと右手は綺麗な状態をとっておきたかったですけど。それから子供たちには、「恥ずかしがらずに夢や目標をいろんな人に伝えれば、どんなに馬鹿にされようと助けてくれる人がいるんじゃないか。そしてその夢を一番助けてくれるのはお父さん、お母さん、先生だよ。なにかしたい、東大に行きたい、まわりの友達はお前なんか馬鹿だから行けるわけないだろうと100人がそう言ったって良いじゃない。おまえ東大に行きたいのか?じゃあ俺が東大に入り方教えてやる」というのが一人いれば十分なんです。サッカーやっても「全国大会に行きたい、あいつは全国大会に行きたがっている」という風にわかると、その人も接し方が違うと思うんです。馬鹿にされることもたくさんあると思います。僕もいろんな夢を語り、倅田來未さんや安室奈美恵さんに会いたいと言いますが、うちのラジオ局は小さいのでそんな分不相応な仕事がお前にできるわけじゃないか。FM-JAGAにできるわけじゃないか。ただそれについてしつこく、札幌に行ってレコード会社の人と知り合ったりして、ひとつずつ夢や目標は叶えることができる。サッカーが好きでJリーグに憧れますからチームメイトにも「俺はお前らよりサッカーが全然下手だけれども、お前らが行けなかったJリーグに俺はいるわけだから頑張っていればどんな形ででも関わられるかもしれないよ。そのためには卑屈にならないで夢や目標を堂々と語る」と言うんです。日本は人知れず努力をし、達成し、不言実行という風潮が素晴らしいとされてきました。もちろんそれも素晴らしいと思いますけど、僕が伝えているのは自分一人ではできないことでも誰かに伝えることによって助けてくれるんじゃないかだと思います。

僕が株式会社エフエムおびひろに入社して副部長になるのに15年くらいかかったんですが、PTAの副部長には電話一本でなりましたから。僕の最初のPTAの肩書は「総務部副部長」。その次は「監査」、三役です。いま幼稚園のPTAもやっているんですけど二年目で五役ですから。そういう役員になれる、嬉しいなと本当に思います。なぜならば僕の夢というのは、大きなところで大きな仕事をするといいものひとつの夢ですが、それは通過点であって、札幌に行って仕事をしているとひょっとして地元の方からは地元を蔑にして、大きなところで自分を売っているように見られるのかもしれないけど、それはそれで仕方のないことだと思います。僕がやりたいのは、サッカーをやる人間として子供たちが大会をする、決勝戦、普通に試合が始まり、普通に試合が終わる。もちろん選手たちは真剣に準備をしてるんでしょうけど、そういったところに自分自身がもうひとつ価値を付け加えることのできる人間になれたなら、同じサッカーをやっている人間として例えば小学生の大会に音楽を鳴らしてJリーグと同じような雰囲気が入場してきたり、一人一人の

名前を呼んで、表彰式もしっかりとした演出がされると子供たちはきっと「あの大会は凄いから、あの大会だけは頑張ろうぜ」ってなるかもしれない。そしてレベルもちょっとずつ上がるかもしれない。そのためにはFM-JAGAで10年20年やっているだけでは足りないんじゃないかなと思っています。僕がFM-JAGAのDJとしてお手伝いしたいんですと言っても、それは正直、親切なおっさんDJが手伝ってくれるんだとしかならない。でも彼ならJリーグも経験してるし、そういったところでやってる人間が来たいと言っているというほうが、恐らく子供たちにも喜んでもらえるんじゃないかなと思います。花火大会もそうです。勝毎花火大会に拘っているわけではなくて、勝毎花火大会のDJをやっている人間が、例えば僕は地元が芽室なんですけれども、芽室の田舎の小学校で夏祭りをやる時に花火大会をちょっとでも楽しんでもらえるようなエッセンスを入れることができたなら、僕の仕事はそういう仕事だと思うんですよね。なので原稿さえしっかりしていれば、台本さえ完成度が高ければ恐らく誰がやってもミスはないと思います。そのイベントは必ず成功すると思いますし、失敗もないと思います。ただ僕らの仕事というのはテレビ番組見ただけでもそうだと思うんですが、ニュースだとかも例えば宮根さんや古館さんがお話をされる同じ題材でも、ぜんぜん伝わり方が違う面があると思うんです。野球の解説も題材は同じなんですけれども、やる人間によってぜんぜん伝わり方が違って来る。サッカーのゴールシーンだとかも「ゴー~~~~~ール」というような声でもゴールはゴールですから間違いにはならないですよ。でも僕は自分なりのゴールのコールをしたいと思うので頭が一瞬クラッとくるくらいまで「ゴ~~~~~ールっ」くらいの勢いであることによって情報を伝達するというだけではなくて、スタジアムに来てくださっているサポーターと選手と関係者が一体となって戦うんだという意思を持つことを目的としています。最後に繰り返しますが、やることは同じでも、やる人が変わればぜんぜん違うんだということを目指してやっています。更に自分のやりたいこと、自分の目指したいことを真剣に伝えることで、きっと仲間が出来て、こんな自分でもPTAもやらせてもらってるし、DJもやらせてもらってますし、自分の世界を広げることができるんじゃないかなと思います。いま44歳ですけどこれからいろんな方と出会って、そういったことを恥ずかしげもなく堂々と伝えていければ、自分なり会社なりが目指しているところに少しずつでも近づけるんじゃないかなと思います。ロータリーの皆様方にもいろんなことをお願いする機会があるかと思いますが、その時にはFM-JAGAのあいつがこんなことを言っていたなということを出していただいて、ご協力いただければと思います。今回呼んでいただいて、こういう機会をいただいたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

